

▽夜叉公子 (前後篇十二卷)

原作兼脚色者 帝キキ 芦屋時代映畫
監督者 上島 量氏
撮影者 山下 秀一氏
主演者 三木 茂氏
明石 緑郎氏
久野 あかね嬢

紹介 第百五十五號

壽々喜多呂九平氏がマキノに在社した時分よく發表した所謂覆面ものの型式を備えた作品である。然し最後まで覆面に依つて観客の興味を釣つて行く時の呂九平もの程の魅力はやはり持つて居ない。大河流の前に他の夜叉公子が出現する等呂九平式ながら何う扱ふかと思つたが有耶無耶で終つて了ふなど頼りなかつた。山下秀一氏の監督はこうしたもの生命たるスピードが相當あつたのは何より結構であつた。概して前篇の方が覆面ものらしくて好かつたラストに於るお定まりのクライマックスは定石通り受

けて居る。明石緑郎氏の大河流は大河となり、白覆面の夜叉公子となつて例に依つて例の如き大活躍を試みて居るが敵の身代りに姫の花かんざしをぬいて行く所など御自身もさぞ恥かしがつたろう。久野あかね嬢の千鳥姫大難刀を小脇にかかえて夜叉公子との烈しい立廻り、さては馬の背にしがみ付いた移動などを拜見して嬢の眞價を初めて味はつた。

山本 綠葉

興行價値——暫く途切れてゐた覆面もの、低級なファンが満足せしめるに充分である。(三月廿日前篇、三月廿七日、後篇、大阪芦屋劇場、神戸相生座、京都キキマ倶楽部封切)